

SDGs 達成のための UNFPA の取り組み

UNFPA towards achieving the SDGs

佐崎淳子 (国連人口基金 東京事務所)

Junko Sasaki (UNFPA Tokyo Office)

sasaki@unfpa.or.jp

持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)は、2015年を達成期限としたミレニアム開発課題を補完するものとなっている。SDGsの策定は、2012年6月にリオデジャネイロで開催された国連持続可能な会議(リオ+20)において議論された。持続可能な開発目標の基である17の目標と169の指標は、持続可能な開発の問題範囲を幅広く包括している。これらの目標と指標にはあらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせること、健康と教育の改善、ジェンダー平等の達成、持続可能な都市空間の整備、気候変動とその影響を軽減するための緊急対策を講じること、そして海、大洋と森林の保全が含まれている。SDGsの第3目標は妊産婦の健康に関わっており、2030年までに世界全体の出生10万あたりの妊産婦死亡率を70人以下に削減すること等が指標として設定されている。これに対し、第5目標はジェンダーの平等と少女のエンパワー(能力強化)の実現を含めており、人身売買や性的搾取を含む全ての女性と少女に対するあらゆる形の暴力を排除する事等が指標として設定されている。これらの目標及び指標はUNFPAも重点を置いているものであり、その実現のためにUNFPAは多岐にわたる取り組みを行っている。例えば、助産師の訓練をはじめとする健康システムの強化や、児童婚や女性性器切除(FGM: Female Genital Mutilation)の根絶に、他のパートナーと協力しながら取り組んでいる。

国連システムは、総会及び経済社会理事会(ECOSOC)においてフォローアップとレビューについて詳細を詰め、9月の総会で決定する予定となっている。